



QFN 通信

Qshu Forest Network News
NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 佐藤 宣子(福岡県 福岡市)

第 23 号 since2005.6.1

発行日 2018.04.16

今年の冬は例年になく寒さが続いたためか、サクラの美しさや新緑のまばゆさなど春の訪れに心を奪われております。会員の皆さまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

自然の恵みを感じるとともに、昨年 7 月 5 日に発生した九州北部豪雨での甚大な被害は、自然の恐ろしさを改めて知ることになりました。特に、当豪雨被害では過去最大級といわれる流木被害が発生し、流木被害をめぐって、森林・林業のあり方に対して様々な議論がなされることになりました。

温暖化による海水面温度の上昇が集中豪雨を発生しやすくしていると指摘されています。九州に住む私たちにとってどのような備えが必要か、減災に向けた山の管理のあり方も課題となっています。空中戦ではなく現場の実態を真摯に見つめて対策を考えていく必要があると考えます。本通信で案内しておりますように、5 月 18-19 日に会員向けのプレミアム研修では、東峰村役場や朝倉市杷木地区の自伐林家である井手裕康様、岩佐製材所のご協力を得て、朝倉市杷木地域と東峰村を訪問して、被災現場の見学と現場のお話を伺えるようになりました。貴重な機会ですので、是非、ご参加くださるようお願いいたします。

また、昨年から森林政策を巡っても大きな動きがあり、森林環境税の導入、森林経営管理法の審議がなされています。市町村や都道府県に森林環境贈与税が配分されるとされていますが、「意欲と能力のある林業経営者」の選定や贈与税の用途限定、森林所有者の意欲を主伐意欲で図るという林業生産重視のあり方など、様々な課題が浮上しています。

林業が活発な九州の山村にも大きな影響がありますので、11 月には現在進行形の「新たな森林管理システムとは？」というテーマで第 23 回九州森林フォーラムを福岡市で開催する準備を進めています。

11 月には総会も開催いたしますので、会員の皆さまからのご要望や活動交流などもできればと考えております。フォーラムと併せて総会へのご参加もご検討下さい。

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部:大分県日田市

<編集責任>

熊本県・小国オフィス



【目次】

第 22 回九州森林フォーラム in
耳川の報告 P.2~P.7



第 22 回 九州森林フォーラム in 耳川

人を育て、定着をすすめるために 報告

～林業人材育成の課題を考える～

平成 29 年 11 月 24 日(金)、25 日(土)にて、九州森林フォーラムを開催いたしました。

今回のテーマは、「林業人材育成」です。

林業分野で若者をどのように育てるのか、きっかけづくりとしての行政が担う教育現場と、企業が担う育て、伸ばす林業現場との連携が重要という認識のもと、就業前と就業後の課題を共有し、林業に従事する方、及び林業を目指す方の意見も含めながら、九州の林業の人材育成はどうあるべきかを議論いたしました。

11 月 24 日(金)

①基調講演 京都府立林業大学校 校長 只木 良也 氏

・府立大学のねらい

人間性豊かな人材育成、視野の広い人材育成、教育輪切り論はダメ、実践教育

・他府県からの生徒は歓迎する。

・卒業生の母校意識を持たせるために、教職員の任期を長くする。

・卒業生の進路(1～4 期生)

就業場所	職種	人数
京都府内	森林組合	18 人
	民間林業事業体	13 人
	製材	2 人
	公務員	2 人
	その他	8 人
京都府外	森林組合等	35 人

・全寮制は、希望はしたが予算の関係上断念。

・毎年 15～20 名程度の学生が入学する。

京都府外の人間が多くなっている。

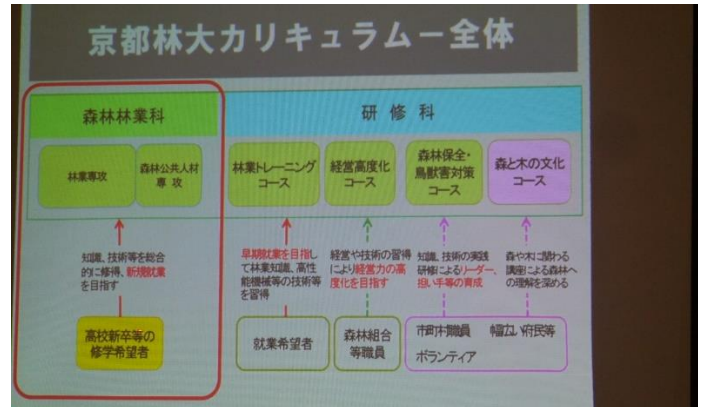
・町ぐるみで林業大学校を応援してもらえるように、地域の活動に積極的に参加する。

・京都府独自の修学資金制度

入学料および授業料は無利息で提供。

京都府内で林業等に 5 年間従事した場合、返還免除。

・緑の青年就業準備給付金、林野庁の支援制度も活用



②事例報告 宮崎県森林経営課 主査 吉行 浩太郎 様

- ・素材生産量日本一の宮崎県にとって、林業就業者数の減少は、現在大きな問題となっている。
- ・緑の雇用制度実施以降、林業新規就業者数は退職者よりも多かったが、昨年退職者の数の方が多くなった。
- ・林業アカデミーを宮崎県に設立し、林業新規就業者数を増やしたい。
- ・林野庁の緑の青年就業準備給付金事業を活用し、アカデミー生が安心して研修に参加できるようにする。
- ・1年間の募集人員は10名程度。
- ・H26～H29までは、宮崎県の県北の研修生が多かった。
- ・宮崎県の職員も、フォレスターの資格を取得するように、研修を受けている。
- ・年間の受入れ枠10名であるが、それでも十分に集まらない年もある。



みやざき林業青年アカデミー研修実績 (H26～H29)			
年度	研修生数	市町村別内訳	就業先
平成26年度	5	延岡市1、桂葉村4	職元2、林業事業体2、森林組合1
平成27年度	8	東郷町3、新田町1、西米良村2、 延岡市1、品川町1 (1ターム)、 高千穂町1、日之影町1、延岡市1、 宮崎市1	職元2、森林組合2、林業事業体4
平成28年度	10	日向市3、桂葉村1、都農町2、 宮崎市1	森林組合3、林業事業体5、職元2
平成29年度	5	日之影町1、延岡市1、桂葉村1 川南町1、都農市1	研修中
計	28		

③事例報告 みやざき林業青年アカデミー卒業生 浅田 春彦 様

- ・祖父が大規模な山林を保有しており、その山林を手入れするための技術を学ぶために、宮崎林業アカデミーにて研修を受けた。
- ・家業の仕事は、シイタケ栽培と造林が主である。
- ・アカデミーでは、次の項目について更に充実させてほしい。
 1. 安全教育→実習を更に増やしてほしい。
 2. アカデミー終了後も再講習する機会があると良い。
- ・行政に対しては、以下の点について重点を置いてほしい
 1. 鳥獣害対策(イノシシ、シカ)
 2. 不在村者の対策
- ・林業アカデミーは有意義であり、そこで学んだ事が今の仕事に活かされているとの事。



課 題 「新規林業雇用者をどう定着させるか、育てるか」

*雇用するにあたり

- ・林業に対する思い、会社の方針性をしっかり伝える。

*雇用が決定したら

- ・林業の知識の教育・技術の教育の両面から育てる。

◎ 知識の教育とは

- ・林業とは何か、森林の果たす役割、FSCとは何かetcを座学で教える。
- ・宮崎県の林業形態はどうかetc
- ・社会人、組織人としてのかわり方etc

◎ お金の教育

◎ 技術の教育

- ・出来る仕事から従事させる。
- ・資格の習得等でやりがいと責任を持たせる。
- ・現場研修等で段階的な技術向上をめざす。
- ・伐採作業、架線作業の技術の習得。

⑥ パネルディスカッション

九州大学 佐藤先生をコーディネーターとして、耳川広域森林組合の遠山参事も加えて、7 名でパネルディスカッションを行った。

遠山参事からは、耳川広域森林組合の組織概要の話を行って頂いた。

林業就業者不足、特に造林に係る人材不足を今後、どのように解決していくかを重点的に話し合った。外国人や女性の活用を真剣に考えていく必要があるとの話もあった。

森林組合からは、今後は、素材生産業者も、造林に取り組んで欲しいとのお願いもあった。また、インターネット等で新規の募集を行っても、地元の採用が圧倒的に多いとの事。



11 月 25 日(土)

①前田産業様 作業現場(架線集材の現場)

宮崎県 諸塚村では、まだまだ架線集材を行う機会が多いとの事。
伐採搬出量の 15%程度は架線集材。



②浅田春彦様 作業現場(コンテナ苗を使った植林現場)

夏場に植林でも活着率は 98%程度になるとの事で、簡単に植林ができるので、素人でも植林する事が可能であるとの事。

価格は裸苗と比較すると、2 倍程度であるが、今後、普及する事を期待したいとの事。住友林業も日向でコンテナ苗の大規模生産を行っているとの事。

コンテナ苗 エムスターの紹介(宮崎県林業試験場)



参加人数

宮崎県 林業技術センター(美郷町)、諸塚村

11月24日フォーラム(宮崎県林業技術センター): 57名

11月25日現地見学会(宮崎県諸塚村): 13名

アンケート結果

【感想】

- ・基調講演、事例発表は多岐にわたり話題があり疑問を投げかけたと思われる。問題は、共通しており、今後の取組を共有し人材育成にそろって取組むべきだと思われる。(50代 森林組合)
- ・直に人材育成(学生,新規就業者)されている方の声を聴き、育成のための方針や信念が大事だと感じました。(40代 行政)
- ・色々な問題が山積みで真剣に考えていかなければと思いました。仲間はたくさんいる。ガンバローと思いました。(50代 森林組合)
- ・地元に残る教育をする事の大切さがわかった。会社で安全対策に温度差があると感じた。中長期の人材育成は大切。(40代 行政)
- ・宮崎県のスギ素材生産量 26年連続日本一となる中、担い手対策が急務である。(60代 林家)
- ・林業の事を少しでも理解する事ができました。どの業種も今後の人材確保。人材育成は企業の課題と感じた。(40代 設計)
- ・県内の林業経営者をもっと参加させてください。(30代 学校)
- ・各種の林業部門の話が聞けたので参考になりました。移住・定住につなげる林業になって欲しい。(60代 林家)
- ・造林班の確保と人が集まるキャリアデザインが必要だと思いました。(30代 行政)
- ・内容がすばらしく、感動しました。(50代 行政)
- ・林業従事者の労働力の確保が極めて厳しい状況である事。森林の価値感、大切さを再認識した。(60代 行政)
- ・前田産業代表の「雇うということは、その人生を引き受ける事でもある」という表現には、昔の「親方」や「頭」の腹

積み、暖かさを感じた。(家族以外の)何らかの集団に受け入れられるという経験は若者に安心感と帰属の幸福感をもたらし、「やっていける」と思う基になるのかもしれない。林業に携わる方々が「事故」の重みをしっかりとらえ、取り組んでいる事が良く分かった。自伐林家さんの「クセがついてしまう」「他のやり方を知る機会が少ない」という悩みは切実だと思う。アカデミーの再受講の補助や現場交流の機会など県や組合などで仕組を工夫できれば・・・(50代)

【 今後取りあげて欲しいテーマ 】

- ・林業で収入を増やす方法(儲かる林業)(30代 行政)
- ・工務店の大工、他職人の人材育成(40代 設計)
- ・他業種との林業のかかわり方(30代 学校)
- ・川上と川下の連携事例(山にお金を返す知恵)(30代 行政)
- ・担い手対策。共有林の今後の在り方(相続)(50代 森林組合)
- ・森林環境税のこと。現場作業(若手)の人の声を聴く(40代)

まとめ

徐々に表面化しつつある、林業従事者不足問題をテーマにし、林業県宮崎県にて、フォーラムを開催したこともあり、非常に多くの林業・行政関係者に参加して頂いた。

かつては、地域の雇用の場であった林業であるが、高齢化が進み疲弊している過疎地に属することが多い森林組合や林業事業体では、絶対的な労働者数不足という難題があり、今後益々、移住者等外部の力を借りなければ、多くの林業事業体は、事業継続ができない可能性もある。それと同時に、親から子へ繋がる林業・地元を好きになるという地域教育も重要であるとの認識で概ね一致した。

第7回 九州森林ネットワーク プレミアム研修 in 朝倉・東峰村

【日時】平成30年5月18日(金)～19日(土) (1泊2日)

【テーマ】九州北部豪雨と森林管理

～朝倉市、東峰村を主に襲った九州北部豪雨から、災害時の対応、復興、森林管理などを学びます～

九州森林ネットワークでは、過去6回に渡ってプレミアム研修を九州各地で行ってきました。この研修会を通して、地域、業種を超えて会員各位の交流を図り、研修を通してそれぞれが抱える問題・課題など様々な意見交換を行ってきました。今回の研修では、「九州北部豪雨と森林管理」をテーマに福岡県朝倉市および東峰村を訪問いたします。平成29年7月の集中豪雨により、これらの地域では甚大な被害が発生いたしました。特に大規模な流木を伴う山林被害はメディアにも大きく取り上げられました。災害から1年が経過し、当時何が起こっていたのか、災害時の適切な対応とは何か、現在の復興状況はどのようになっているのか、これからの森林管理はどうあるべきか、などを学んでいきます。

【視察スケジュール(予定)】 定員20名

	訪問・見学場所(変更の可能性があります。)
5/18(金) 13:00 集合	らくゆう館(集合場所)、井出裕康さんの所有林、井出裕康さんとの勉強会、岩佐製材所 様の製材所見学
宿泊場所	桑之屋(懇親会会場)

5/18(金)、5/19(土)の移動は、マイカーとなります。公共交通機関ご利用の方は、別途車を用意いたします。	
5/19(土) 13:30 解散	東峰村役場、木造仮設住宅見学、岩屋災害現場見学、行者杉・小石原焼物センターの見学

【参加費】 15,000 円/人(会員)、17,000 円(非会員) (宿泊費、朝夕食、懇親会費)

※小石原焼物センター入館料および 19 日の昼食は別途となります。

【お申し込み】 メールか Fax でお申込みください。

住所			
氏名			
連絡先	電話	携帯	
	メール		
備考			

※当日連絡が取れるように携帯番号をご記入ください。

【連絡先】大分県日田市上津江町川原 28101-1 (株)トライ・ウッド内 担当:総務企画部 渡邊

(TEL) 0973-55-2888 (FAX) 0973-55-2323 (Email) info@try-wood.com

【申し込み締め切り】平成 30 年 5 月 1 日